

## GakuNin RDM に触れてみる会 開催報告

資料委員会オープンサイエンス小委員会

令和 5 年 1 月 20 日

研究データ管理の基盤として、国立情報学研究所による GakuNin RDM の運用が開始された。GakuNin RDM は、研究者が研究データを保管・共有するシステムの候補のひとつとなるものと考えられる。図書館が研究データの管理・公開支援業務を設計する上で、関連システムの機能の概略を把握しておくことが必要であるが、GakuNin RDM について知識がなく、画面を見たこともないといった職員もいるものと思われる。資料委員会オープンサイエンス小委員会では、以下の通り、同システムの使用・操作の様子を見てその概要を把握するための会をオンラインで開催した。

### 【開催概要】

日時：第 1 回 令和 4 年 12 月 23 日（金）15:00-17:00

第 2 回 令和 5 年 1 月 11 日（水）14:00-16:00（各回とも同一内容）

対象：国立大学図書館協会会員館職員

講師：国立大学図書館協会資料委員会 オープンサイエンス小委員会委員

内容：趣旨説明および GakuNin RDM 操作デモ【45 分】（次頁参照）

参加者による感想・意見交換（少人数グループ）【15 分】

参加者による感想・意見交換（全体）【60 分】

会員館からのべ 131 名の職員の参加があった。GakuNin RDM についての参加者及び各所属先の習熟・対応状況は以下の通り

あなた自身は GakuNin RDM をどのぐらい知っていますか？	あなたの大学では、研究データ管理のツールとして、学内研究者に対し GakuNin RDM の利用を推奨し、支援する予定ですか？（責任を持った正式回答を求めているわけではありません。個人的印象で結構です）	
	1 回目	2 回目
業務上のプロジェクト等で実用したことがある	9%	15%
実用したことはないが操作経験はある	16%	12%
操作経験はないが画面や動作を見たことはある	28%	31%
画面を見たこともない	47%	42%
	1 回目	2 回目
はい	25%	33%
未定だがそうなるんじゃないかな	50%	41%
検討が必要	22%	19%
いいえ	3%	7%

当日オンラインで寄せられた質問・感想・要望等について、その一部に対して後日国立情報学研究所から得られた回答とともに別紙に示す。

以上

開始までしばらくお待ちください。


## GakuNin RDMに 触れてみる会

国立大学図書館協会資料委員会オープンサイエンス小委員会  
第1回 令和4年12月23日(金) 15:00-17:00  
第2回 令和5年 1月11日(水) 14:00-16:00




### この会の趣旨

- NII肝煎りの会ではありません
- GakuNin RDMの利用説明会・操作説明会ではありません
- 話し手は、GakuNin RDMの利用教育を受けていません(間違い、理解不足、知識不足だと思いますがご容赦ください)
- みなさんと一緒に、一利用者としてGakuNin RDMを触ってみます
- 「質問」に答えられる人は、話し手も含め、今日この場にいません。今日できることは印象、感想、意見、疑問点や要改善点など、気づいたことを話し合うこと

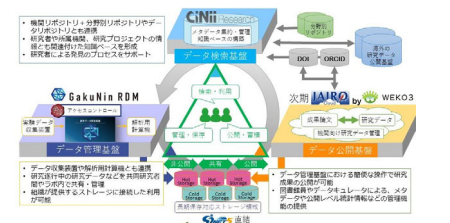


### すすめかた


- 趣旨説明およびGakuNin RDM操作デモ [45分]
- 参加者による感想・意見交換(少人数グループ) [15分]
  - Zoomのブレイクアウトセッション機能(数名ずつ小分けにして小部屋に分かれる)により、ランダムにみなさんを班分けします
  - 氏名のアイウエオ順でいちばん若い人が進行をつとめ、印象、感想、疑問点などを出し合ってください
  - 15分後に自動的に全体セッションに戻ります
- 参加者による感想・意見交換(全体) [60分]
- 時間配分は多少伸缩することがあります
- 全体を通して、slii.doで意見等書き込めるようにしておきます  
slii.doへのアクセス情報はチャットをご覧ください



### NII RDC (Research Data Cloud)




https://rcos.nii.ac.jp/service/



### GakuNin RDM


- Open Science Framework (オープンソース) を元に、研究データ共有の部分について、日本語化・機能追加
  - 売りとしては学認に守られたセキュアな研究データ共有
- 要利用申請(大学単位ないし部局単位)
  - 申請済機関・組織に属する研究者が使用できるようになる
  - 他大学の共同研究者を招き入れることも可能
  - OpenIdP経由で、非利用機関所属の相手を招待することも可能
  - (大学として利用申請すればもちろんのこと、) 附属図書館が部局として申請すれば図書館職員も使えるようになる

できるよになっているがしりあや(2023)だそうぞ




### 本日の想定

- 名大の研究プロジェクト「次世代図書館システムの機能要件」
- 研究組織は以下の構成
  - 研究代表者 直江(名大)
  - 研究分担者 端場(名大)
  - 研究分担者 杉田(京大)
- GakuNin RDM上にデータ共有の場を設定済み
- で、杉田が持っているデータを研究組織全員に共有する
- それから、新たに研究分担者を追加する
  - 追加する研究分担者 尾城(東大)




### 再掲

- 参加者による感想・意見交換(少人数グループ) [15分]
  - Zoomのブレイクアウトセッション機能(数名ずつ小分けにして小部屋に分かれる)により、ランダムにみなさんを班分けします
  - 氏名のアイウエオ順でいちばん早い名前の人が進行をつとめ、印象、感想、疑問点などを出し合ってください
  - 15分後に自動的に全体セッションに戻ります
- 「質問」に答えられる人は、話し手も含め、今日この場にいません。今日できることは印象、感想、意見、疑問点や要改善点など、気づいたことを話し合うこと



### 参加者による感想・意見交換(全体)

- 印象、感想、意見、疑問点や要改善点など共有しましょう
- 「操作デモでやらなかったけど、あの右上のボタン押すとどうなるのかな」とかもあれば画面使ってやってみます
- 流れ解散とします
- **全員にお願い!** 退出の際、GakuNin RDMや今日のこの会についての感想・意見をslii.doに書き込んでいってください。
  - 記名でも匿名でも結構です。
  - が、どんな大学のどんなお立場の方の意見なのかわかるよう、匿名の場合もほんやりで結構ですのでカッコ書きで付記お願いします
  - 例 リポジトリ連携の技術情報が早く知りたい(単科大学・係長)



### 国立大学図書館のRDM支援力強化に向けて

国立大学図書館が各大学の研究データ管理・公開に実質的に貢献  
(活動中報告会) 月刊PCOAR 令和5年2月15日(水) 14-16時

<p><b>大学のポータル一貫定を支援</b></p> <p><b>研究データポータル一貫定のためのワークショップ</b> 令和4年11月28日(月) 所属機関のポータル一貫定状況や課題を共有し、少人数で意見交換・課題解決</p> <p><b>RDM連携共有・意見交換会</b> 令和5年1月30日(月) AXIES・JPCOARの「研究データ管理事例集」から具体的な実践を紹介</p>	<p><b>RDM支援業務の設計と図書館職員による実装</b></p> <p><b>RDM支援業務の事例分析と共有</b></p> <p><b>RDMのための標準技術の普及</b></p> <p><b>GakuNin RDMについて</b></p>
<p><b>(小委員会)</b></p> <p>委員長: 本郷京也(京都大学)</p> <p>委員: 京大 山本大 早稲田大 駒大 京大 早稲田大 駒大</p>	<p><b>現役の専業出身図書館職員等による専門サポートグループ</b></p> <p>委員: 北海道大 山崎大 慶大 東大 京大 東大 東大 東大 東大 東大 東大 東大</p>

## 第1回 (令和4年12月23日開催) ★は同種の感想・疑問を持った参加者の数

項番	感想・疑問点等 (実名・実大学名の記載は伏字にしています)	★	NIIからの回答
1	デフォルトで入っているNIIのストレージは、プロジェクトを作成した機関の容量が使われるのか、追加した方の所属機関のものが使われるのでしょうか。	4	プロジェクトの作成者(したがって、作成者の所属機関)のストレージ容量が使われます。※参考:サポートポータル/よくあるご質問「複数のメンバーが参加するプロジェクトに於いて、どのようにストレージは消費されるのですか?」
2	サブプロジェクトのストレージは、上位プロジェクトと共用なのかそれぞれ独立なのかが気になりました。	4	サブプロジェクトには、上位プロジェクト(の作成者)のストレージ容量が使われます。
3	先ほどの少人数グループでも発言したのですが、GakuNin RDMについて、使い方の概観がつかめるようなマニュアルなりパンフレットなりがあればいいなと思っています。現在のマニュアルのページでは、個々に詳細なマニュアルになっているので、自分が知りたいことがどこなのかを理解するのが、まず難しいように思いました。(国立大学 リポジトリ担当)	3	
4	機関Aで作成したプロジェクトに機関Bの所属者を追加できるということは分かりました。この場合、機関Aだけではなく機関BもGakuNin RDMが使えるようになっていないと駄目なのか。大学以外の方との共同研究などでも使えるのか。	2	利用規程上、機関B(または機関Bのうち、該当者が所属する組織)もGakuNin RDMの利用機関になっている必要があります。 <b>12/23の杉田部長のデモのように、個人でOpenIdpに登録し、機関A(GakuNin RDM利用機関)のプロジェクトに参加することは認められていません。</b> なお、利用機関の範囲は「国立情報学研究所研究データ管理基盤利用規程」第3条のとおりです。
5	試しに操作できる環境がほしいです。(学認不参加機関の図書館職員)	1	
6	ファイルのメタデータは登録後に編集・削除できるようですが、プロジェクトのメタデータを登録後に編集・削除できないのはなぜなのでしょう。	1	
7	今回の進行スライドが欲しいです。	1	
8	国立大学のリポジトリ登録担当者です。研究データに対するDOI付与について気になっています。現状、Datacite DOI・Jalc DOIとそれぞれ使用されている機関があるかと存じますが、システム上で推奨されているDOIなどが定められていると学内で議論がしやすいと感じます。(本学ではDatacite DOIを導入する見込みです)	1	
9	国立大図書館職員 学内の研究データ管理WG(今の仕事はポリシー策定)に参加	1	
10	JAIRO Cloudとの連携が将来的にスムーズになると信じて学認RDMに参加(済)JAIRO Cloudへも参加(予定)なので、Niiのみなさまにはぜひ期待に応じて頂きたいです。また、出来れば、ファイル無しでもメタデータの管理が出来るようになって欲しいです。本学のポリシーではデジタルでないものでもメタデータ付与を推奨する方向です。	1	
11	参加するようになると言われ、全く何も知らずに参加してしまいました。すみません。部分的にしか聴講できませんでしたので、次回もう少し勉強してから聴講させていただこうと思いますが、業務の幅がどんど	0	

	ん広く深くなることに恐怖を覚えることしきりです。(地方大学・リポジトリ担当係長)		
12	タグはプロジェクト参加者だけが見える/検索できるのですかね。GakuninRDM の他の利用者までみえるのようにはできるのか、さらにその後プロジェクトや研究データの情報が公開されたときにも付与され続ける感じなのですかね。	0	
13	バージョン管理した時の画面が見たいです。	0	
14	メンバー追加できるのは誰でもできるのでしょうか。代表者(作成者)権限とその他の参加者で権限に違いがあるのでしょうか。	0	メンバー追加ができるかどうかは、作業権限(パーミッション)の設定に依ります。あるプロジェクトを作成した場合、最初は作成者に「管理者」権限が与えられるので、メンバーを追加し、その作業権限を設定することができますが、作成者であっても「管理者」権限を別のメンバーに引き渡すなどした場合は、メンバー追加ができなくなります。※参考:サポートポータル/ユーザーマニュアル「メンバーの追加」「パーミッションの設定」「目録表示メンバー」
15	個人でファイル(データ)登録して使う場合もプロジェクトで複数人で使う場合と同じ感じでしょうか。	0	プロジェクトにメンバーを追加せず、一人で使用することもできます。ファイル操作等の機能は同じです。
16	OSF では機関ごとに登録されているプロジェクトの一覧が表示されていましたが、GakuNin RDM でも同様の機能がある(あるいは今後追加される)のでしょうか	0	GakuNin RDM にはありません。今後の追加も予定しておりません。
17	オープンサイエンスというからには、公開が前提だと思うのですが、非公開では他のクラウドや WIKI と変わらないのではないのでしょうか? オープンサイエンスの<理想としては>RDM に集められたデータを他の研究者も参照でき、それが科学の発展に寄与するのだと思います。(他機関出向中理系大学係長)	0	GakuNin RDM は、研究プロジェクトを実施する過程で、個人の研究者あるいは研究グループが研究データや関連資料を管理・共有するための基盤です。基本的にクラウドな空間で使用します。広く公開可能になった研究データは、公開基盤(JAIRO Cloud)等に引き渡す連携を想定しています。※参考:サポートポータル/よくあるご質問「リポジトリ連携」
18	図書館員が Gakunin RDM を操作するのは、公開する研究データを選択するくらいかと思っていましたが、私の認識は間違っているのでしょうか。図書館員は研究プロジェクトのメンバーではないので、そもそもメンバーに追加してもらえないのでしょうか。	0	GakuNin RDM の利用機関が、教職員等のごくまでを GakuNin RDM の利用者として認めるかは、各機関に委ねられています。図書館員が業務に関連する調査研究のプロジェクトを立てて、自機関の教員や他機関の図書館員とデータを共有するなどして利用することも、可能性としては考えられます。
19	案内するときにわかりやすいメリットがないです。GakuNin RDM の一番の売りになりえる点は、スタンダードなツールであるということではないかと思うのですが、今のような採用したい機関はどうぞ、という提供のされ方ではなかなか普及しないと思います。図書館職員はアドボカシーを期待されているのでしょうか?(総合大学主任)	0	
20	いったん部局で(図書館で)申請しておいて、試しにいろいろ触ってみた後で大学での申請に切り替える、とかしてみたいと思うのですが、申請の切り替えてどのくらい簡単(面倒)なんでしょうか。国立大学人社系図書室スタッフ	0	部局申請→全学という切替えは、これまでも複数例あり、それほど面倒ではありません。所用日数は新規申請手続きと同程度(1ヶ月くらい)です。利用範囲を全学とする場合、学長名の申請が必要であることや、全学利用の担当部署をどこにするか等、むしろ大学内の調整が難しいように見受けられます。なお、部局で申請する場合も、機関

			が学術認証フェデレーション「学認 (GakuNin)」に参加していればスムーズですが、「学認 (GakuNin)」に参加していないと、やや面倒になります。※参考: サポートポータル「導入手続き」
21	私の部局ではまだ GakuNin RDM を使おうという声 があまり聞こえてこないと思います。研究者の先生 方に何がメリットだと伝えてお薦めすればよいのか をご教示いただければ幸いです。人社系分野ですの で、セキュアが売りというよりも他の利便性・メリッ トを知りたいです。	0	
22	正直なところ、本学では、科研費等の方針転換によっ て研究データの取り扱いを定める必要性があるため というのが研究データポリシー策定の一番の動機で す。全体的になにやら義務感が漂うところは仕方が ないような気がします。研究者全員を合流させるの ではなく、選択肢のひとつになるならそれで十分な のではないかなと個人的には思っています	0	
23	研究データのメタデータについて、公開する際に必 要な分のメタデータを入力する仕組みがほしいで す。 GakuninRDM でプロジェクト管理している間 にちょっとずつ教員自身がメタデータを入れておけ るようにしておいて、 GakuninRDM から JAIROCloud へデータファイルを移行して公開する 際に、 GakuninRDM 側で入れたメタデータを JAIROCloud 側のメタデータへ変換するマッピング ができてくれるとよいと思いました。	0	
24	メタデータの作成機能があるのは良いと思いましたが が入力内容が難しいように感じました。(国立大学リ ポジトリ担当)	0	
25	大変、申し訳ありません。GakuninRDM というもの が、どういうものかということで、カメラ、マイクを 準備せずに、視聴させていただきました。2025 年度 までに、各大学で RDM ポリシーを策定し、どこま でのデータを何によって管理するかを選択していく 必要がありますが、その選択の中に GakuninRDM の利用が含まれると思っています。今回、視聴させて いただいて、データ管理機能のところ少し見えた気 がします。ありがとうございます。ただ、強制では ないはずなのに、科研は利用の義務が見え隠れして いて、全く、その辺りの情報が解らないというのが本 音です。(●●大学 ●●)	0	
26	外部 URL へ飛ばす機能ですが、GakuninRDM の外 に「プロジェクト Web ページ」を作っているような 場合に使うのでは、と思いました。	0	
27	NII 肝入りではない会、とのことでしたが、忌憚なく 意見を言い合える場としてとても有意義だったと思 います。(単科大学・副課長)	0	
28	プロジェクト管理システムの 1 つとして提案する、 という理解ができました。ありがとうございます。	0	
29	コミュニケーション機能がより充実すると、 GakuniRDM 内のつながりで共同研究が生まれたり して良いのではないかと思います(単科大学・研究 支援担当係長)	0	
30	お話にもさんざん出てきましたが、先生方が使いた くなるような売りになるストロングポイントが何か あるといいですね。既存の SNS やストレージでは なく、Gakunin RDM を使うメリットをうまく説明	0	

	できないとつらいかと思えます。先生方の事務仕事でもなんでも手間が減るのならいいです。		
31	学認 RDM を理解するためには、図書館職員が、研究者の研究データ管理の現状・実態について、理解・知識が必要だと感じました。（地方大学 課長クラス）	0	
32	貴重な機会をご用意いただき、誠にありがとうございました！事情あって部分的な参加となりましたが、具体的な操作や画面を見せていただけたことがとても有難かったです。皆様のご質問からも気づくこと等得ることが多いと感じました。ご無理のない形で、今後も開催いただけますと幸いです。どうぞよろしく願いいたします。	0	
33	本日はありがとうございました。タイムスタンプの利点や JAIRO Cloud との連携がいつ頃なのかが特に気になりました（総合大学・GRDM 導入予定）	0	
34	GakuNinRDM のユーザーマニュアルや FAQ が公開されたことで、図書館職員（非研究者）にとっても概要をつかみやすくなりました。ただ、それでもなお、研究者ではない職員にとっては説明が不足している部分があると思います（証跡管理のタイムスタンプは結局何？なぜその機能が大事なの？とか）。利用者である研究者向けだけでなく、それを案内する図書館や情報担当部署向け、という目線も追加して、今後の充実を期待したいです。（国立大学図書館・係長級）	0	
35	今回は、ブレイクアウトルームの時間を長めにさせていただけるとありがたいです。	0	
36	本家 (?) の OSF と比較したときの「売り」をまとめた資料があるといいのかな？ と思いました。	0	
37	日本語インターフェースがあって、一つの画面でいろいろなことができる点はいいと思いました。しかし、どこで何ができるのかがぱっと見でわかりにくく、操作感をつかみにくいところがとっつきにくさを生んでいる気がします。（総合大学・係長）	0	
38	海外の研究者との共同研究を考えたときに、迂回する方法はあるにしても、学認で認証というのは苦しいように思いました。	0	
39	学認 RDM については、学内での普及の際のターゲットやメリットがもう少し明確だと説明しやすいと思いました。本学では科研費の義務感から話が出発しているので、うまく良さをアピールする報告に切り替えないと難しいように思います（●●大学・課長）	0	
40	GakuNin RDM は大学として参加していますが、個人的にはほとんどよく知らない状態でした。今日、デモを見せていただいて、また、様々お話し伺って、やっと RDM とその先などのイメージが少しできてきました。ありがとうございました。まずはアカウント作って触ってみようかと思えます。（単科大・課長）	0	
41	この会自体への感想。答えられないことが多々あることが前提で、デモでもよくわからない機能も率直にでてきて、これくらいライトに実施していただけると、気軽に皆さんで話し合う雰囲気になりますね。ざっくばらんに話し合える、大変、良い機会でした。（●●大学・課長）	0	

42	<p>最初のデモのグタグタぶりが GakuNin RDM の使い勝手を象徴しているように感じました。それはともかく、今回のような録画なしでフラットに意見交換ができる場はとても良かったです。●●大の研究データ管理ガイドラインは年明けに公開予定ですが、その中では「研究データは、研究中においては、研究データ管理責任者の下、作成者によって安全に保管されなければならない。学外の機関が運営するクラウドサービスについては、学内の情報セキュリティ規則および情報セキュリティ実施手順を満たすストレージサービス、例えば、GakuNin RDM の利用が望ましい。」とか書いてます。でも、積極的には推せないなあと... ●●大・●●●</p>	0	
43	<p>共同研究だけでなく研究室での研究指導管理に使える余地はあるような気がしております。同じ機関なので Gakunin RDM の導入格差ありませんし、学生の研究データ管理をいかにチェックするかは研究室運営での根強い課題だと思いますので。(●●大・係員)</p>	0	
44	<p>ディスカッションを聞いていて、「セキュアな環境」という部分をもっと全面的なウリとして推したほうがいいんじゃないのかという気がしました。自分のパソコンでデータは一応管理しているけどなんか不安だ、という先生はいらっしゃるのではないかと思います。そのような先生の受け皿の一つとして、大学として用意して提供する価値はあるように思いました。そのためには、どこがどのようにセキュアなのか、というところをもっと知りたいと思いました。(単科大学・係長)</p>	0	
45	<p>どうもありがとうございました。今回のような集まりは非常に有益だと思います。学内の関係部局も参加してもらってもいいかと思うのですがどうなのでしょう。この周辺の話題があまりに進まないのは、GakuNin RDM の得体が知れない部分も多少関係しているように思うので。(●大学、●●)</p>	0	
46	<p>本学ではつい先日 GakuNin RDM の利用申請をしたところですが、既に GakuNin RDM を導入されている機関さんのお話を本日うかがって、まだ開発途上のシステムなのだという印象です(実際に、メタデータ付与や JAIRO Cloud との連携など開発中の機能がいくつもある)。もっと機能が充実してからでないと、研究者の方に勧めることは難しいと感じました。(●●大学附属図書館 係員)</p>	0	
47	<p>本日はどうもありがとうございました。GakuninRDM サポートポータルによれば、本日少し話題に上がったデータリポジトリの「figshare」やコミュニケーションツールの「Slack」等、一部開発中とはいえ様々なサービスとの連携が考えられているようなので、今後データ管理+α のツールの一つとして研究者が選択する可能性を考慮し、図書館として準備する必要があるのかなと考えています。学内他部署との業務分担がどうなるかなど様々事情があるかと思えますし、研究分野ごとに様々なお作法があるとも思いますので、準備にあたってはシンプルな話にはならないだろうと考えています。(●大・係員)</p>	0	

第2回（令和5年1月11日開催）★は同種の感想・疑問を持った参加者の数

項番	感想・疑問点等 (実名・実大学名の記載は伏字にしています)	★	NIIからの回答
1	wiki で直接入力すると単語が二回反映されるのは去年から気になっていました。仕方ないのでメモ帳からコピペして使っています。ウェブ上での編集だから仕方ないのかもしれませんが、反映まで微妙なタイムラグがあるのも気になります。	4	ウェブブラウザの種類によっては、wiki 入力が正常に動作しない事象があることを確認しました。NII の開発チームに共有しておきます。
2	本日はこのようなざっくばらんな機会をいただきましてありがとうございました。感想です。感覚的に分かりやすく使用できるものかと思っていましたが、杉田部長の動作を拝見して、主に使用されるであろう先生方も同じような箇所をつまづくのだろうなと思い、大変参考になりました。導入時に研究者に紹介できるような簡易的な利用マニュアルのようなものはないのでしょうか。実際は各機関が所属研究者のレベルに合わせて作成するものなのでしょうか（単科大学・係長）	3	利用マニュアル等は NII でも整備していく予定です。一方、すでに独自に詳細なサポートページを作成されている利用機関も見受けられます（例：信州大学附属図書館 <a href="https://www.shinshu-u.ac.jp/institution/library/gakunin-rdmfaq.html">https://www.shinshu-u.ac.jp/institution/library/gakunin-rdmfaq.html</a> ）。今後は NII と大学が協力しながら、利用者支援ツールや広報ツールを充実していければ、と思いますので、よろしくお願いたします。
3	プロジェクトを後日公開する場合、消費されるストレージの容量はどうなりますか？ プロジェクト作成者の容量がいつまでも消費されるのでしょうか。	3	GakuNin RDM 自体に「公開」機能はありませんので、プロジェクトの研究データを公開するには、該当ファイルの複製を公開基盤「JAIRO Cloud」などにエクスポートする必要があります。その際、GakuNin RDM 内にも該当ファイルを保持し続けていけば、ストレージの消費容量は変わりません。公開完了後に GakuNin RDM から研究データまたはプロジェクト全体を削除すれば、使用可能な容量が復活することは、普通の PC と同様です。
4	機関管理者側で、全学のプロジェクトを参照できる機能などがあるのが気になります。特に公的資金による研究の DMP などが研究支援担当から参照できると、実際の支援業務に活かせるのではないかと思います。	3	現状では、機関管理者が全学のプロジェクトを参照できる機能はありませんが、すでに GakuNin RDM 利用機関から NII に同様のご要望をいただいております、検討中です。
5	Gakunin RDM の導入手続き案内には、一定の前提条件を了承すれば OpenIdP を利用した申請ができるように記載されていましたが、使ってはいけなかったのでしょうか？	2	GakuNin RDM は、機関（または部局）の長から利用申請を出していただくことを必須としています。このとき、機関（または部局）として「OpenIdP の利用」を選択することは可能です。しかし利用申請をしていない機関の構成員や、所属機関が「学認使用」で申請を出しているのに構成員が OpenIdp 経由で GakuNin RDM にアクセスすることは認められていません。なお、この件については、もう少し安全かつ柔軟な対応が取れるよう、NII でも検討中です。
6	共同研究者が GakuNin RDM を利用していない場合、メンバー追加はできないのでしょうか。その場合は研究データの共有に他のツールを使用するしかないということでしょうか。	2	ご理解のとおりです。共同研究者の所属機関が GakuNin RDM を利用していない場合は、他のツールを使用いただくこととなります。
7	杉田部長が操作で躓いた（ように見えた）以上、教員も同じように躓くと思います。UI や用語の再検討はマストのように思いました。	2	
8	GakuNin RDM から JAIRO Cloud へという連携が実装された場合、公開された研究データ本体は GakuNin RDM と JAIRO Cloud と両方に保存されるのでしょうか。	2	標準的な公開手順としては、GakuNin RDM 内の研究データの複製を JAIRO Cloud にエクスポートすることを想定していますので、両方に保存されることとなります。



9	<p>質問：教員へ Gakunin RDM をおすすめるにあたって、Gakunin RDM の長所や、（もしあるなら）Gakunin RDM のライバルを知りたいと思いました。</p> <p>感想：自分でも Gakunin RDM の長所が説明できるように、もっと練習しなければと思います。</p> <p>（総合大学・係長）</p>	2	<p>GakuNin RDM 利用機関どうしであれば、容易に研究データの共有ができ、その研究データにはタイムスタンプ機能を用いることで研究証跡が付与されます。また、DMP 作成や工程管理をサポートする機能や、研究データへのメタデータ付与機能なども拡充していきますので、研究活動における煩雑な作業を低減します。つまり、一連の研究活動の効率化が期待できることが、GakuNin RDM の長所です。</p>
10	<p>みなさんは、既に研究データポリシーは策定済みですよね？</p>	1	
11	<p>全体としてもっきりとした動作（レスポンス）は、改善予定はあるのでしょうか？ Web サービスとしては、ありえないかなあ、という印象はどうしても受けてしまいます。身内である図書館職員でこの印象なら、教員だったら...</p>	1	
12	<p>システムを運用していると、システムのバックアップを取ることがあるかと思います。その際、ものによっては研究データ等登録データも含めてフルバックアップを取得するシステムもあるかと思います。</p> <p>gakunin RDM では、研究データのバックアップを作成するのでしょうか。</p>	1	<p>GakuNin RDM を安心して利用いただくため、NII ではシステムの二重化やストレージ（登録されたコンテンツを含む）のバックアップを行っています。</p>
13	<p>今日はありがとうございました！本学では Teams でチーム「研究データ管理」を作成して、情報交換をしています。勉強会を開催して、実際に GakuNinRDM を操作しています。触れば使い勝手の良さはわかる！あとは、教員がいかに使用してくれるかですね・・・</p>	1	
14	<p>本日はまず、GakuNin RDM とはなんぞや、からスタートしました。初見の感覚として、GitHub によく似ているなと思いました。以前 GitHub を使ってプログラム開発をした際、複数人でリポジトリ管理ができ共有しやすいこと、またバージョン管理の意味でも活用できるという長所がありました。本日お話を伺って見て、GakuNin RDM を研究で使う際も近い長所があるのだなと思いました。</p> <p>今後は GakuNin RDM の使い方に加えて、なぜ GakuNin RDM を使うと良いのか、なぜそれを図書館が主導(?)しているのか、その背景と理由をきちんと理解する必要があるな、と思いました。（●●大学・係員）</p>	1	
15	<p>プロジェクト全体の管理プラットフォームとしてはどうしても Google や Microsoft を始めとしたほかのサービスに分があるように感じてしまいますが、機関ストレージとの接続ができる点やデータ解析機能との連携など、アドバンテージもあると思います。将来的に JAIROCloud 以外のリポジトリとの連携も検討しているとのことなので、その点も期待したいと思います。全体として、いろいろ新しい情報を得ることができ、大変有意義でした。ありがとうございました。</p>	1	
16	<p>今日は貴重なお話ありがとうございました！他大学さんの状況を知ることができました。本学は昨年度から GakuNinRDM の利用の試行を開始しました。先生方に利用の浸透をさせる工夫をしています。</p>	0	

17	本題からずれて申し訳ございません。研究データ公開に向けて、GakuNin RDM を導入する以外の方法がありましたら、どのような方法があるかご紹介いただけますとありがたいです。	0	「公開」だけであれば、論文のオープンアクセス支援と同様、研究者から「公開したい」という要請のあった研究データを受け取って、機関リポジトリ等で公開していくことが可能です。GakuNin RDM は、基本的にクローズドな環境で、研究データや関連資料を管理・共有するための基盤です。
18	インターフェースは何語（日本語・英語など）に対応しているのでしょうか？	0	現在、日本語と英語に対応しています。Webブラウザの言語設定で切り替えることができます。
19	RDM の在り方や選択肢について、いろいろと考えが深められて、貴重な機会となりました。ありがとうございました。まだまだ端緒についたばかりの話も含まれていると思いますが、多様な学術分野の在り方に寄り添えるような、間口の広い仕組みや体制が取れるとよいのだろうなあと思いました。（総合大学、掛長）	0	
20	置き場所という性格が強いようですが、研究データを管理する機能が重要と思います。研究データ管理の中心は、(管理用データとしての)メタデータになるかと思います。また、そのメタデータを流通させることが、必要と思います。メタデータ連携の充実に期待します。リポジトリが論文に特化しており、研究データのメタデータと互換が取れるか心配しております。 データが研究ノートなどの紙について、それを管理するために、管理用にメタデータのみ入力し、管理するなどの使い方は想定されているのでしょうか。そういうデータの管理を求められることもありうるかと思えます。（メタデータのみ公開などのケースも）	0	
21	学認 RDM の画面を初めて見ることができ、少しイメージがわきました。学認 RDM を使わない機関も含めた全体が目指すところ等のお話を聞かせていただき、理解が深まりました。	0	
22	グループディスカッションで、図書館と情報関連部署が協力して GRDM の学内普及を進めている事例を聞くことができ、参考になりました。ありがとうございました。 GakuNin RDM が唯一の選択肢ではなく、内閣府「公的資金の・・・考え方」の求める要件を満たせるかや、本来の RDM の目的にかなうかという視点でツールを広報していく必要があると改めて思いました。これまで RDM の習慣がない研究者に広報するにあたっては、GakuNin RDM がそういうツールになっていることが望ましいので、DMP なども含め、今後も機能開発に注目していきたいと思えます。（総合大学・係長）	0	
23	機構として学認に参加していません。OSF を確認するなど必要に応じて進めていきたいと思えます。JAIR Cloud への参加も検討中です。	0	

24	<p>本日は貴重なお話をありがとうございました。他大学様の状況を把握することができ、大変有意義でした。Gakunin RDM については、本学はまだ導入しておりません。思っていたよりは使いやすそうだと感じた反面、用語など直感的に分からない部分もありました。もう少しわかりやすく、使い勝手がよくなる(メリットが増える)と教員にも浸透させやすいのかと感じました。WEKO3 の本運用が延期になっていて、Gakunin RDM も完成されていないというように感じ、研究データポリシー策定期限までに快適に使えるようになるのかという疑問があります。(単科大学・係員)</p>	0	
25	<p>貴重な場をありがとうございました！色々な立場の意見が聞けてとても参考になりました。GakuNin RDM は思っていたよりも基本操作(データの追加だけ等)は簡単そうと感じました。一方で、パッと見て何に使うかわからない機能だったり、実際には使えないボタンなど、細かいところで躓くところが多そうなので、しっかり使おうと思うと挫折しそうだな...というのも正直な感想です。 NII が正式に提供している信頼できる場所、というメリットだけでは使ってくれる人はそこまで多くないかなと思うので、使い勝手のアップデートに期待したいです...！(総合大学・係員)</p>	0	
26	<p>本日はありがとうございました。実際の画面をみれて大変有意義な時間となりました。皆様の率直な意見が大変参考になりました。このような機会を設けていただき大変感謝いたします。リポジトリ連携機能の開発状況等も知れてよかったです。(単科大学 リポジトリ担当)</p>	0	
27	<p>今の状態だと研究者にお勧めしにくいので機能強化を期待します。いろいろな方の感想やご意見を伺えて有意義でした。ありがとうございました。(総合大学・係長)</p>	0	
28	<p>詳細まで理解できていなかったもので、このような会に参加できて良かったです。教員や学生に今後利用を勧めることになると思いますので、便利な機能の追加や、もっと分かりやすい利用ガイド(具体的な事例を入れてもよいかもしれません)が整備されるとよいと思いました。</p>	0	
29	<p>本日はこのような機会をありがとうございました。今日のように GakuNinRDM を動かしているところを見る機会はありませんでしたので、勉強になりました。動作に多少の不安を覚えた一方で、操作は簡単そうでした。また、JAIRO Cloud などの公開基盤との連携が実装され、研究データ管理-&gt;公開が簡単に流れるようになると、より魅力的なものになるように思われました。</p>	0	
30	<p>オープンサイエンス小委員会の活動、ありがとうございます。次々と画期的で有用な企画をしていただき、今回のイベントも国大図協のつながりを活かし深めるタイムリーな企画です。GAKUNIN-RDM で研究者がどのような画面に触れ入力することになるのかがイメージできました。初心者的感想としては、機能が少なくシンプルに思え、多忙な研究の中で使うのには悪くないように感じました。(総合大学・課長)</p>	0	

31	<p>おそらく全ての研究者にとって使い勝手のよいものというのはいないと思うので、GakuNinRDMを使うメリットを整理し、実際のモデル事例などと合わせて広報してもらえるといいのでは、と思いました。また、GakuninRDMに図書館員が習熟するのも兼ねて、「GakuninRDMの使い方ガイドを作ろう」みたいなプロジェクトがあってもいいかもしれないですね。（総合大学・係員）</p>	0
32	<p>2回目の参加でした。同一内容とされてはいましたが、1回目の様子から違う話しも出るかもしれないと思いましたことと、私自身がいろいろよく解っていないためおさらいしたいと考えました。残念ながら、今回は来客と会議があり、ほとんど参加できませんでしたが、たいへんありがたい企画だったと感じています。図書館はどのくらい関わるのか定かではない状況ですが、RDMは触ってみようと思います。（単科大・管理職）</p>	0
33	<p>本日は貴重な機会をいただきありがとうございました。大変参考になりました。GakuNin RDMについては、研究者の方に使ってもらうにはまだ機能追加が必要なように思います。追加する機能については研究者の方へのインタビューをして、ご要望を明らかにしていただけるとよいかもしれません。また、そのインタビュー結果をどこかで公開していただくと幸甚です。リポジトリの担当者としては、ファイルのへのメタデータの付与機能とリポジトリとの連携について、GakuNin RDM利用者とリポジトリ担当者それぞれで発生する作業やその流れを明示した資料などをお示しいただけると大変助かります。（総合大学・リポジトリ担当係員）</p>	0
34	<p>本日はありがとうございました。各館の状況を伺える貴重な機会となりました。JCとの連携を含め、今後の機能改善に期待しています。（総合大学・係長）</p>	0
35	<p>ありがとうございました。GakuninRDMは研究者がデータ共有をするのはある程度使えるかなという印象です。ただ、おそらく利用の際にはかなり質問が来そうなので、そこは図書館がやるのか研究支援的な部署がやるのか、情報系がやるのか、どのような分担にするのかなどは今後検討しないとないと思います。図書館的には図書館が必要とするメタデータやファイルがどのように流れてくるのが気になりましたが、これは今後期待したいと思います。（総合大学 係長）</p>	0